

平成26年度 林業技術普及 セミナーを開催

去る2月6日、平成26年度林業技術普及セミナーを、「科学の目を通した樹と木と木造建築の面白さ」をテーマとして盛岡市中央公民館で開催しました。

本セミナーは、岩手県林業技術センターの試験研究成果等を市町村や森林・林業関係団体の職員等に対して紹介し、その成果を地域に普及定着させることを目的として、開催しています。

セミナーは2部構成とし、第1部は秋田県立大学木材高度加工研究所所長の林知行氏に、第2部は岩手県林業技術センター主任専門研究員の中嶋康氏に、講演していただきました。開催テーマを木造建築としたことから、参加者は林業関係者などの、いわゆる「川上」から、製材業者や建築設計事務所の「川中・川下」まで多種多様な構成となり、100名を超える参加をいただき盛会となりました。

【第1部講演】

林氏には、「プロでも意外に知ら

ない木の知識」と題して御講演をいただきました。森林総合研究所に勤務されていた時代からの、全国の木材・木造建築に関する豊富な知識・経験を踏まえて、一般的に本当だと信じられていることが、実はウソであることを、分かりやすくユーモアを交えてお話しいただきました。

その一例として、「年輪幅の広い方が南側である」と広く信じられていることを挙げ、日光がよく当たると光合成が盛んに行われるが、樹木の場合は幹が光合成を行うのではなく、葉が光合成を行うので日光の当たり方と年輪幅のでき方は無関係であるという解説をいただき、参加者は大変感心していました。



林知行氏による講演

【第2部講演】

中嶋氏には、「県産材を用いた3層クロスパネルの開発と利用技術」

と題して御講演をいただきました。現在、林業技術センターでは、スギ丸太の付加価値向上に向けて、3層パネルの研究を進めている現状や、県内企業との共同研究により明らかとなってきた、パネルの接着条件や床材・耐力壁としての性能などについて、実験の写真を交えて説明していただきました。

今後の課題として、①大型施設への利用を目的とした準耐火構造大臣認定の取得、②3層パネルに関する情報発信、知名度向上が挙げられました。



3層クロスパネルを展示したところ、様々な質疑が交わされました

林業技術センター普及班は、これからも研究と現場との橋渡しの一翼を担っていくこととしています。

林業技術センター普及班

019(698)1337